

古代の川崎市役所を探して ～橋樹官衙遺跡群の調査成果～

栗田 一生 (川崎市教育委員会)

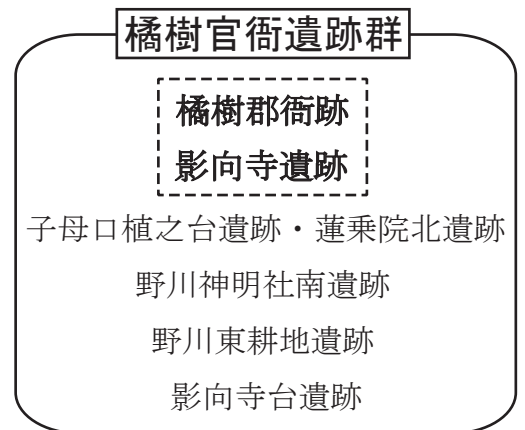
1. 遺跡群の概要

(1) 橋樹官衙遺跡群 (第 1 図)

- 橋樹郡衙跡・・・古代武蔵国に所在した 21 郡の 1 つである橋樹郡の役所跡
- 影向寺遺跡・・・橋樹郡衙跡西側に隣接して 7 世紀後半に創建された古代寺院

(2) 立地と地理的環境 (第 2 図)

- 所在地・・・[橋樹郡衙跡] 神奈川県川崎市高津区千年 字伊勢山台・蟻山・上原宿
[影向寺遺跡] 神奈川県川崎市宮前区野川 字東耕地



- 多摩川右岸約 2.6km の距離を隔て、その中流域南岸の沖積低地を望む多摩丘陵の頂部、通称「伊勢山台」と呼称される多摩丘陵が延びる舌状台地上の平坦面に立地。
- 「伊勢山台」の丘陵頂部は標高 40 ~ 42 m で、東西に広がるが、南北は狭い。北側の沖積低地との比高差は約 30 m を測る。

2. 律令国家と地方官衙

(1) 国司と郡司

- 国司・・・中央から貴族が派遣される地方官としての国司 (クニノミコトモチ)。4 年任期。
- 郡司・・・伝統的に地域支配を行ってきた地方豪族 (国造 (クニノミヤツコ)) が任じられる例が多い。終身官。
- 元日朝賀の儀礼と国司の国内巡行

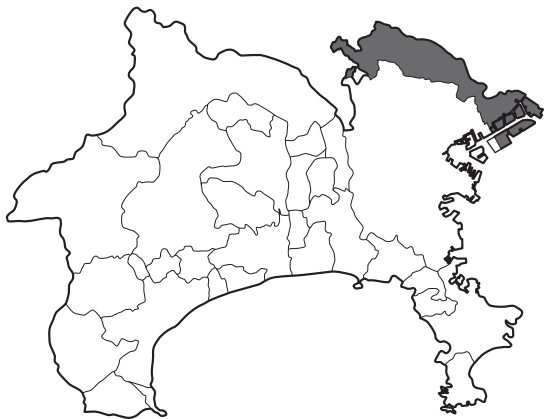
～参考資料～

●選叙令 (せんじょりょう) 13 郡司条

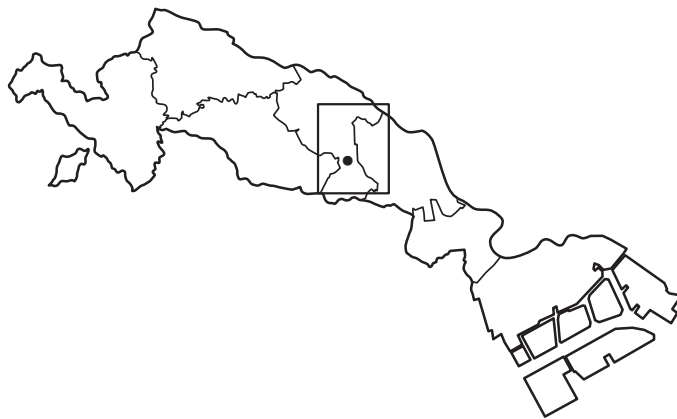
凡そ郡司には、性識清廉にして、時の務に堪へたらむ者を取りて、大領・少領と為よ。強く幹く聡敏にして、書計に工ならむ者を、主政・主帳と為よ。其れ大領には外従八位上、少領には外従八位下に叙せよ。〔其れ大領・少領、才用同じくは、先づ国造を取れ。〕

●儀 (ぎ) 制令 (せいりょう) 18 元日国司条

凡そ元日には、国司皆僚属郡司等を率ゐて、①庁に向ひて朝拝せよ。②訖りなば長官賀受けよ。③宴設くることは聴せ。〔其れ食には、当処の官物及び正倉を以て 充てよ。須む所の多少は、別式に従へよ。〕



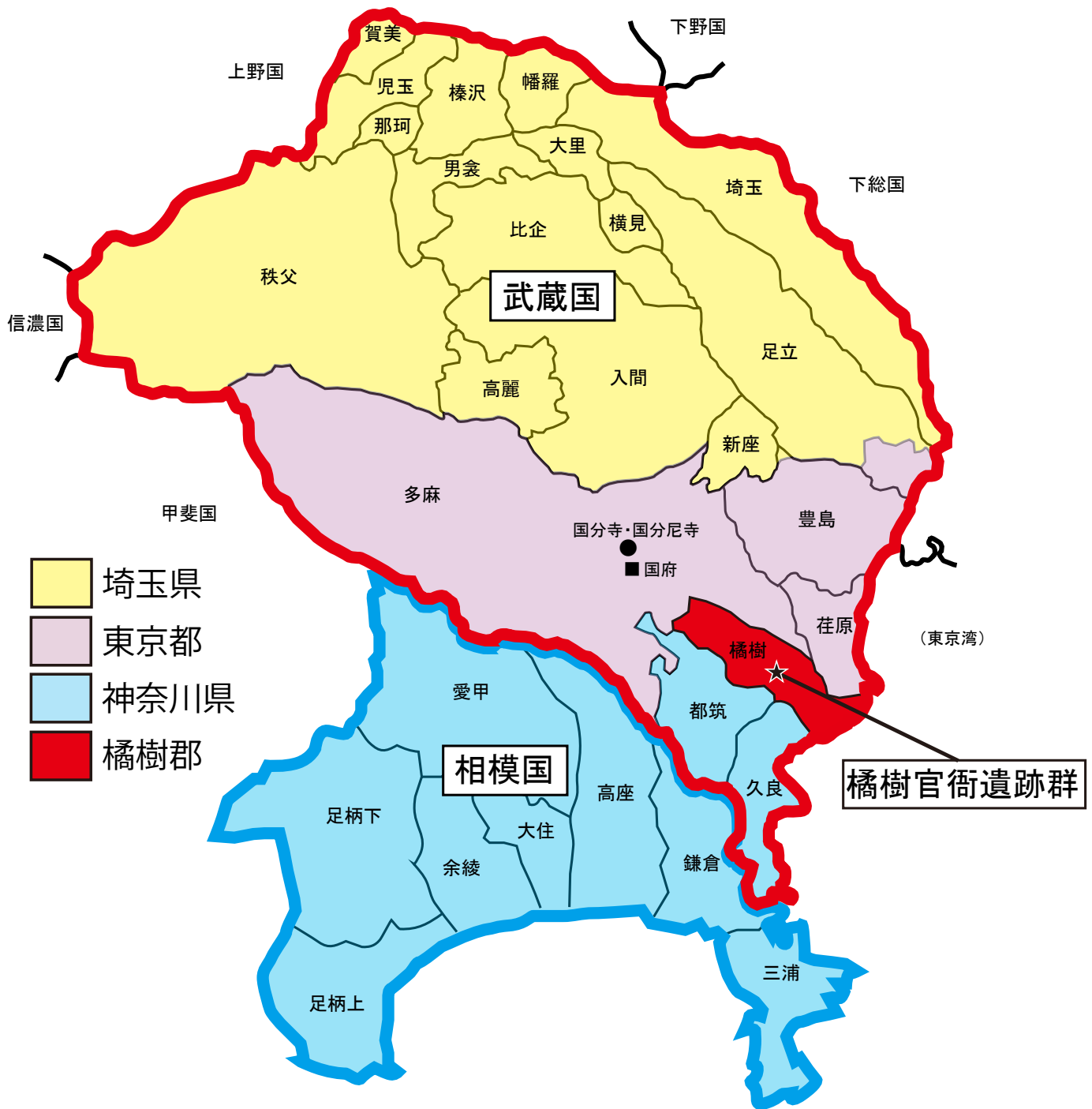
神奈川県内における川崎市



川崎市内における位置



第2図 橘樹官衙遺跡群位置図



第3図 橘樹官衙遺跡群位置図

● 『日本書紀』大化元年（六四五）八月庚子条（東国国司詔）

東国等の国司を拜す。仍りて国司等に詔して曰はく、天神の奉け寄せたまひし隨に、方に今始めて万国を修めむとす。凡そ国家の所有る公民、大きに小きに領れる人衆を、汝等任に之りて、皆戸籍を作り、及田畝を校へよ。其れ藪池水陸の利は、百姓と俱にせよ。又、国司等、国に在りて罪を判ること得じ。他の貨賂を取りて、民を貧苦に致すこと得じ。京に上らむ時には、多に百姓を己に従ふること得じ。唯使国造・郡領をのみ従はしむること得む。但し、公事を以て往来はむ時には、部内の馬に騎ること得、部内の飯食ふこと得。…若し名を求むる人有りて、元より国造・伴造・県稻置に非ずして、輒く詐り訴へて言さまく、「我が祖の時より、此の官家を領り、是の郡県を治む」とまうさむは、汝等国司、詐の隨に便く朝に牒すこと得じ。審に実の状を得て後に申す可し。…

(2) 地方官衙遺跡

○国府（国衙）・郡家（郡衙）、郡家の出先機関・正倉院別院など

○遺構と出土文字資料

建物＝大規模な掘立柱建物（掘方・柱痕跡）や礎石建物が存在。正方位性が強い。

国庁・郡庁の「コ」または「ロ」の字配置の規格性が見られる。

官衙立地の特徴性…官衙地名・水陸交通路の要衝

木簡など文字資料の出土…出土文字資料による官衙遺跡名称の決定

		日本列島及び国際情勢	橘樹郡関係
飛鳥時代	589	隋(ずい)、中国を統一	(7世紀後葉) 橘樹郡衙跡＝大壁(壁建ち)建物 影向寺遺跡＝大型掘立柱建物群 馬絹古墳築造 (7世紀末葉) 橘樹評設置 橘樹郡衙跡＝評段階の建物群 影向寺創建←「无射志国荏原評」 文字瓦
	593	推古天皇即位。聖徳太子が摂政となる	
	603	冠位十二階	
	604	十七条の憲法	
	607	小野妹子を隋に送る(遣隋使)	
	607	奈良に法隆寺を建てる(現在の建物は再建)	
	618	唐、中国を統一＝律令を基本法とする中央集権的な国家体制	
	630	第1回遣唐使の派遣	
	645	乙巳の変(大化の改新)	
	646	改新の詔	
	660	唐・新羅が百済を滅ぼす。	
	663	白村江(はくすきのえ)の戦い	
667	近江大津宮に遷都		
668	中大兄皇子が即位して天智天皇となる		
670	戸籍「庚午年籍」を作る		
672	壬申の乱。大海人皇子が天武天皇となる。飛鳥浄御原宮に遷都		
694	藤原京に遷都		
701	大宝律令の制定		
奈良時代	710	平城京に遷都	(8世紀前葉～中葉) 橘樹郡衙跡＝正倉院整備 影向寺遺跡＝金堂・塔整備 756(天平勝宝8)11月 橘樹郡橘樹郷・郡司領外従七位 下刑部直名虫、同郷刑部直国当 (正倉院調布墨書銘) 768(神護景雲2)6月 武蔵国橘樹郡の飛鳥部吉志五百 国が久良郡で白い雉を捕獲し朝 廷に献上 (8世紀後葉) 橘樹郡衙跡＝正倉院衰退始まる
	712	古事記ができる	
	713	「風土記」の編さん	
	718	養老律令を撰修	
	720	日本書紀ができる	
	723	三世一身の法	
	729	長屋王の変	
	741	国分寺建立の詔	
	743	墾田永年私財法。大仏造立の詔	
	752	東大寺大仏開眼供養	
756	養老律令が施行		
771	武蔵国が東山道から東海道へ編入された		
784	長岡京に遷都		
平安時代	794	平安京に都を移す	(9世紀前葉) 橘樹郡衙跡＝正倉院廃絶(移転) 影向寺遺跡＝建物補修(補修瓦) (9世紀後葉～10世紀前葉) 影向寺遺跡＝建物補修(補修瓦)
	797	勘解由使を設置(国司交替時、国司を監督した)	
	804	最澄と空海が唐に渡る	
	805	最澄(伝教大師)が唐より帰り、天台宗を開く	
	806	空海(弘法大師)が唐より帰り、真言宗を開く	
	842	承和の変	
	858	藤原良房が摂政となる	
	866	応天門の変	
	884	藤原基経が関白になる	
	894	菅原道真の提案で遣唐使を停止する	
901	菅原道真が藤原氏によって大宰府に流される。		

第4図 古代史略年表

(3) 郡衙（郡家）の構造・機能と在地社会

○郡衙の構成

郡庁（正殿・脇殿・庭（広場）・南門・区画施設など）・官舎（曹司）・館・正倉院・厨・寺院（郡寺）・神社・生産遺跡（土器・製鉄・鑄造・造瓦・漆など）・津（海上・河川）・駅家・郡津・祭祀場（「水辺の祭祀」）・交通路（駅路・「伝路」）

○官衙関連遺跡・・・郡衙下部組織・正倉院別院・「郷倉」など ※「郷家」説
※複数の官衙関連遺跡・・・郡衙と郡衙下部組織もしくは郡衙の移動などが想定

○郡衙で働く人々

●弘仁十三年（822）閏九月二十日太政官符（『類聚三代格』巻六）

・・・郡雑任（郡衙に務める下級職員）・・・書生・案主・鑑取・税長・徴税丁・調長・服長・庸長・庸米長・驅使・厨長・器作・造紙丁・採松丁・炭焼丁・採藁丁・まぐさ丁・駅伝使舗設丁・伝馬長

(4) 郡衙の役割

○公的な機能（公共性） 儀礼・・・政務・儀式・饗宴

郡庁の正殿、東西脇殿とそれらに囲まれた「庭」（広場）

儀制令 18 元日国司条の儀礼の国庁（正殿）の郡庁版 饗宴と厨

○財政 徴税・管理 正倉院＝周囲に区画をもつ正倉（国家的倉庫）の倉庫群

○宗教・祭祀 寺院 「郡寺」・・・郡衙周辺の郡司氏族の氏寺

律令制的祭祀・・・郡衙周辺の祭祀遺跡・遺物

○文書行政（情報伝達）

木簡・漆紙文書・墨書土器など出土文字資料

郡符木簡・封緘木簡

郡司の郡内への命令下達に「郡符」の文書木簡を使用

郷長たちから郡司に宛てた紙の文書の封緘のための封緘木簡が出土

(5) 遺跡群としての官衙遺跡

○地方官衙遺跡の複合性

★橘樹官衙遺跡群

橘樹郡衙跡（正倉院・その他建物）、影向寺遺跡（郡寺）、子母口植之台（蓮乗院北）遺跡（正倉院別院・その他建物）

～参考事例～

A. 下寺尾官衙遺跡群（相模国高座郡衙、神奈川県茅ヶ崎市）

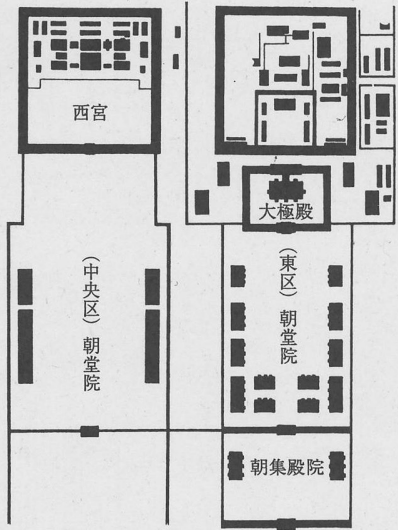
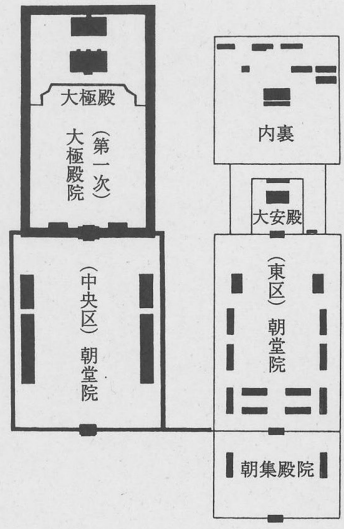
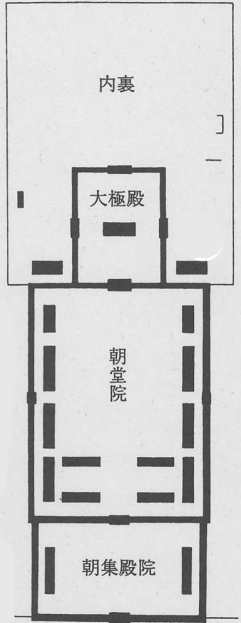
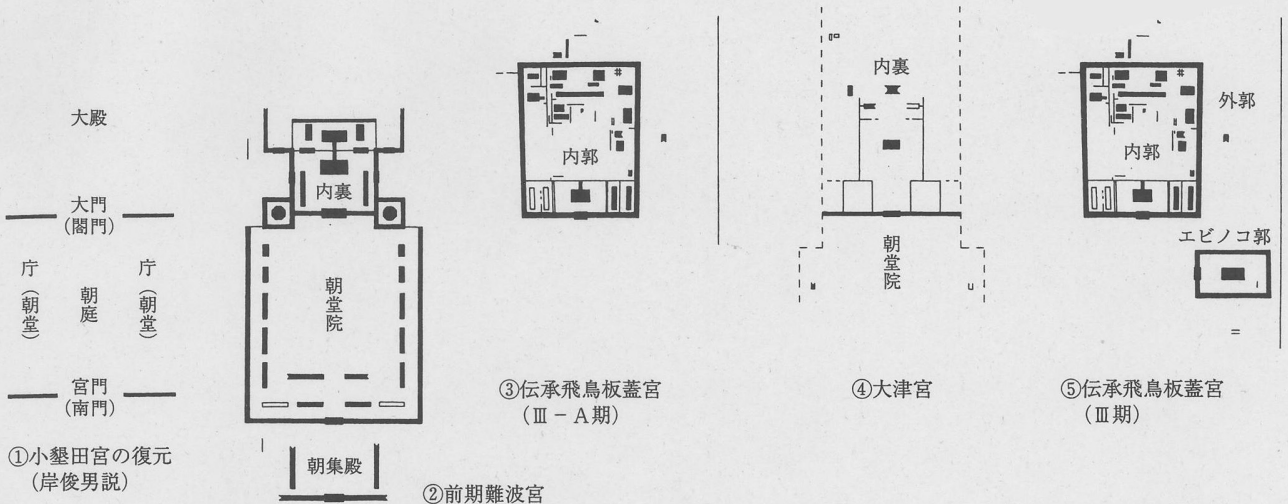
西方 A 遺跡（郡庁・正倉院・館・厨）、下寺尾廃寺跡（郡寺）、祭祀場、川津

B. 弥勒寺官衙遺跡群（美濃国武儀郡衙、岐阜県関市）

弥勒寺東遺跡（郡庁・正倉院・厨）・弥勒寺跡（郡寺）・弥勒寺西遺跡（祭祀）・古墳

C. 武蔵国幡羅郡衙跡（埼玉県深谷市・熊谷市）

幡羅遺跡（館・正倉院・曹司・工房・道路）・西別府廃寺（郡寺）・西別府祭祀遺跡・東山道武蔵路



0 500m

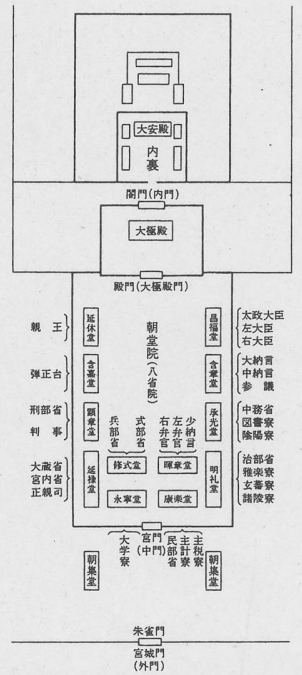
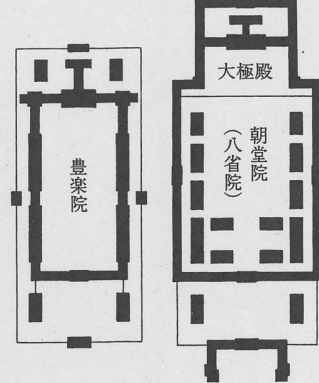
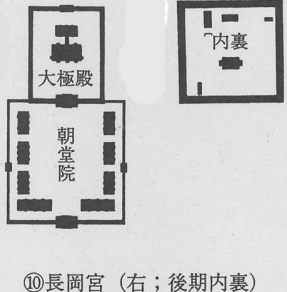
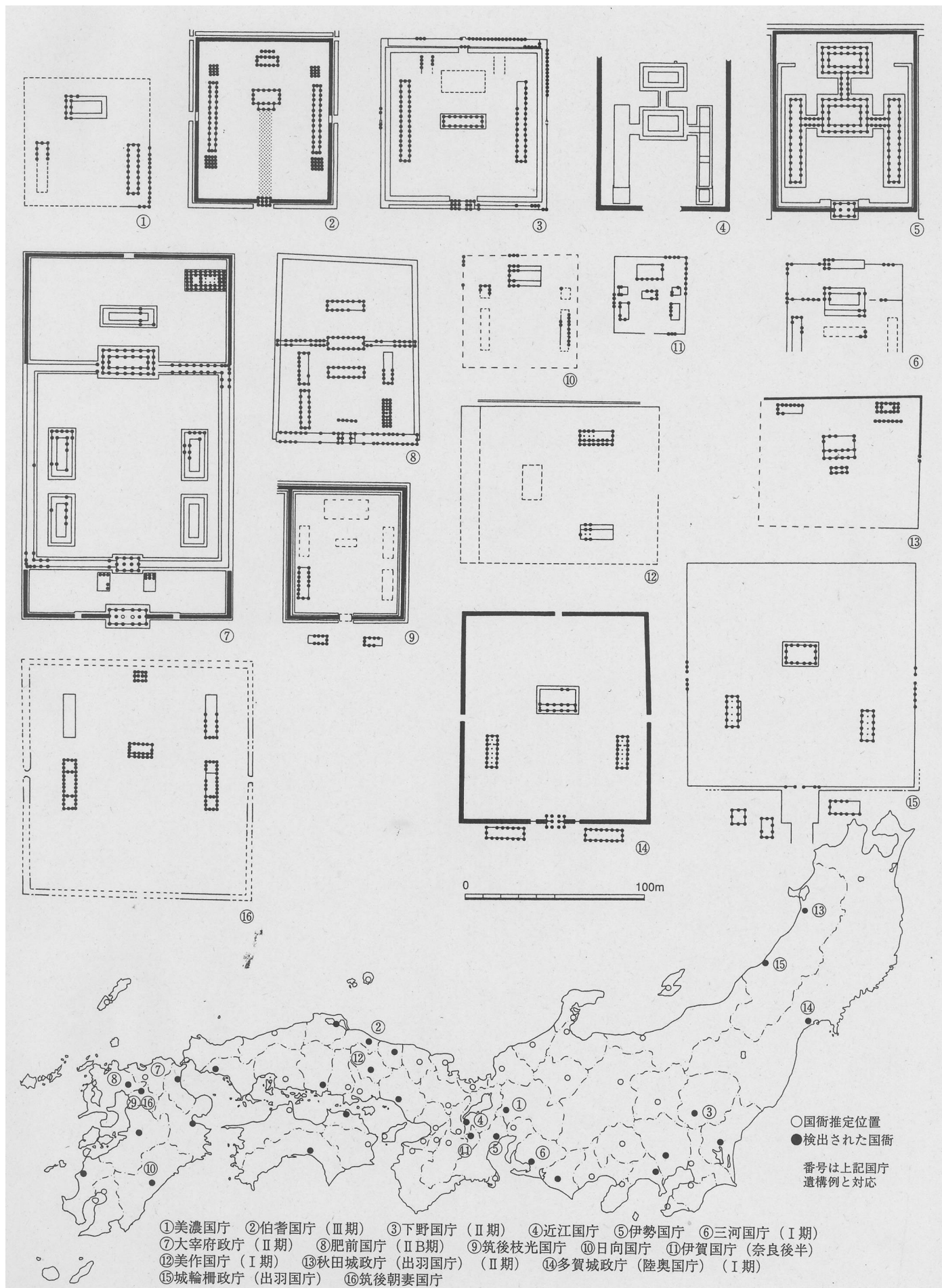


図1 大極殿・朝堂院の変遷過程

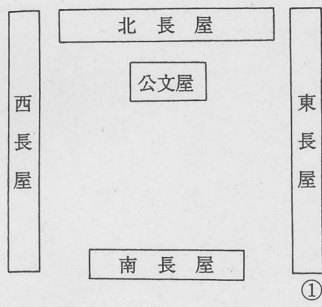
図2 内裏・朝堂院概念図

第5図 大極殿・朝堂院

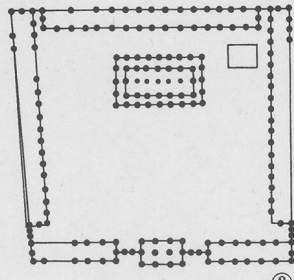


第6図 国庁建物配置

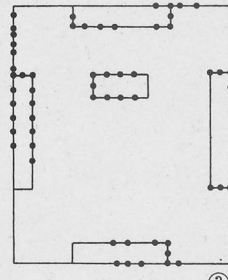
I A類



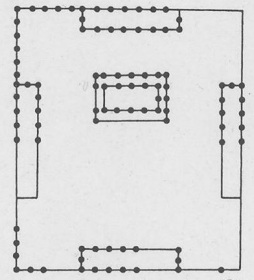
①



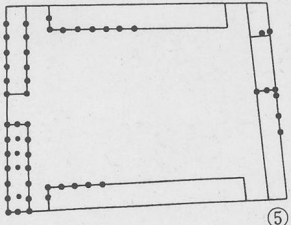
②



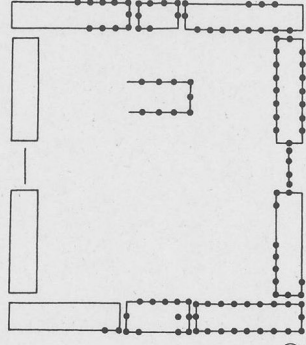
③



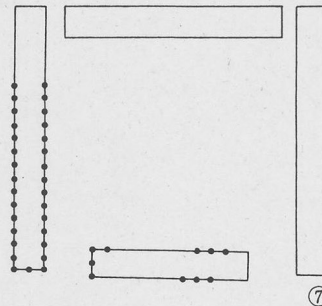
④



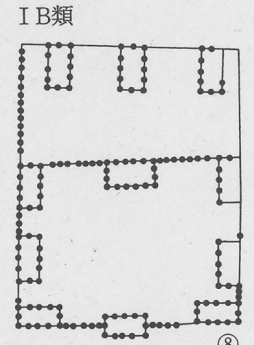
⑤



⑥



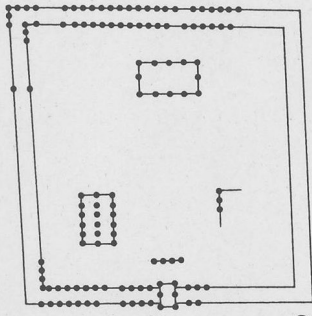
⑦



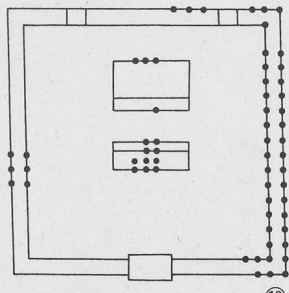
⑧

I B類

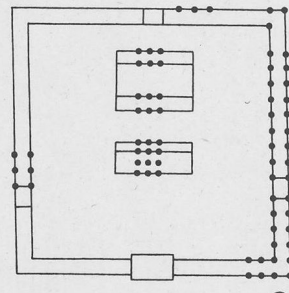
I C類



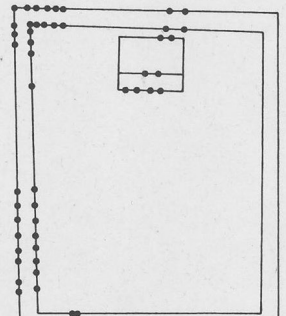
⑨



⑩



⑪



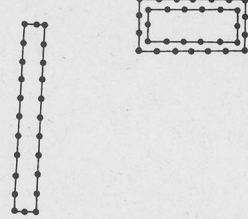
⑫

①上野国新田郡庁の復元

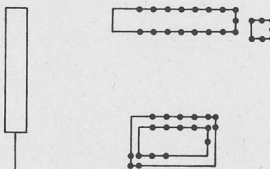
(『上野国交替実録帳』による)

- ②岡遺跡 (近江国栗太郡衙) III-1期
- ③泉廃寺 (陸奥国行方郡衙) I期
- ④泉廃寺 (陸奥国行方郡衙) II a期
- ⑤嶋戸東遺跡 (上総国武射郡衙) 前期
- ⑥小郡官衙遺跡 (筑後国御原郡衙) II期
- ⑦御殿前遺跡 (武蔵国豊島郡衙) I b期
- ⑧戸島遺跡 (因幡国気多評衙支所か)
- ⑨名生館官衙遺跡 (陸奥国玉造郡衙) 小館地区
- ⑩神野向遺跡 (常陸国鹿島郡衙) II期
- ⑪神野向遺跡 (常陸国鹿島郡衙) III期
- ⑫御殿前遺跡 (武蔵国豊島郡衙) V期
- ⑬上神主・茂原官衙遺跡 (下野国河内郡衙) II期
- ⑭下寺尾西方A遺跡 (相模国高座郡衙) 前期
- ⑮万代寺遺跡 (因幡国八上郡衙) II期

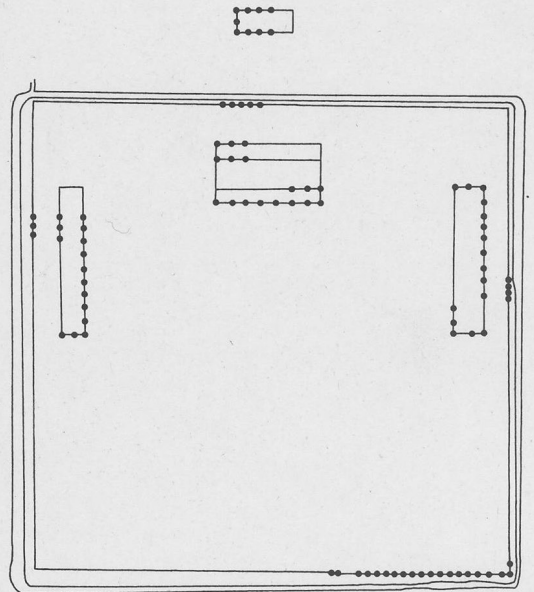
II A類



⑬



⑭



⑮

0 50m

第7図 郡庁建物配置

3. 古代の川崎市役所を探して～橘樹官衙遺跡群の調査経過～

①橘樹郡衙跡の調査経過（第8図）

○1996（平成8）年 千年伊勢山台北遺跡・・・橘樹郡衙正倉群の発見

○1998（平成10）～2004（平成16）年度

橘樹郡衙推定地確認調査事業（橘樹郡衙跡第1～8次調査）

・・・橘樹郡衙正倉院の確認、郡庁・館・厨家等は確認できず

○2004（平成16）～2014（平成26）年度

ガス管理設工事に伴う確認調査（橘樹郡衙跡第9・10・14次調査）

・・・橘樹郡衙跡内の公道下にも遺跡が現存していることを確認

○2006（平成18）年度

公園整備に伴う確認調査（橘樹郡衙跡第11次調査）

○2013（平成25）年度～

橘樹郡衙跡確認調査事業（橘樹郡衙跡第12・13・15次調査）

・・・橘樹郡衙跡上原宿地区で新たな大型建物を発見。谷部の調査

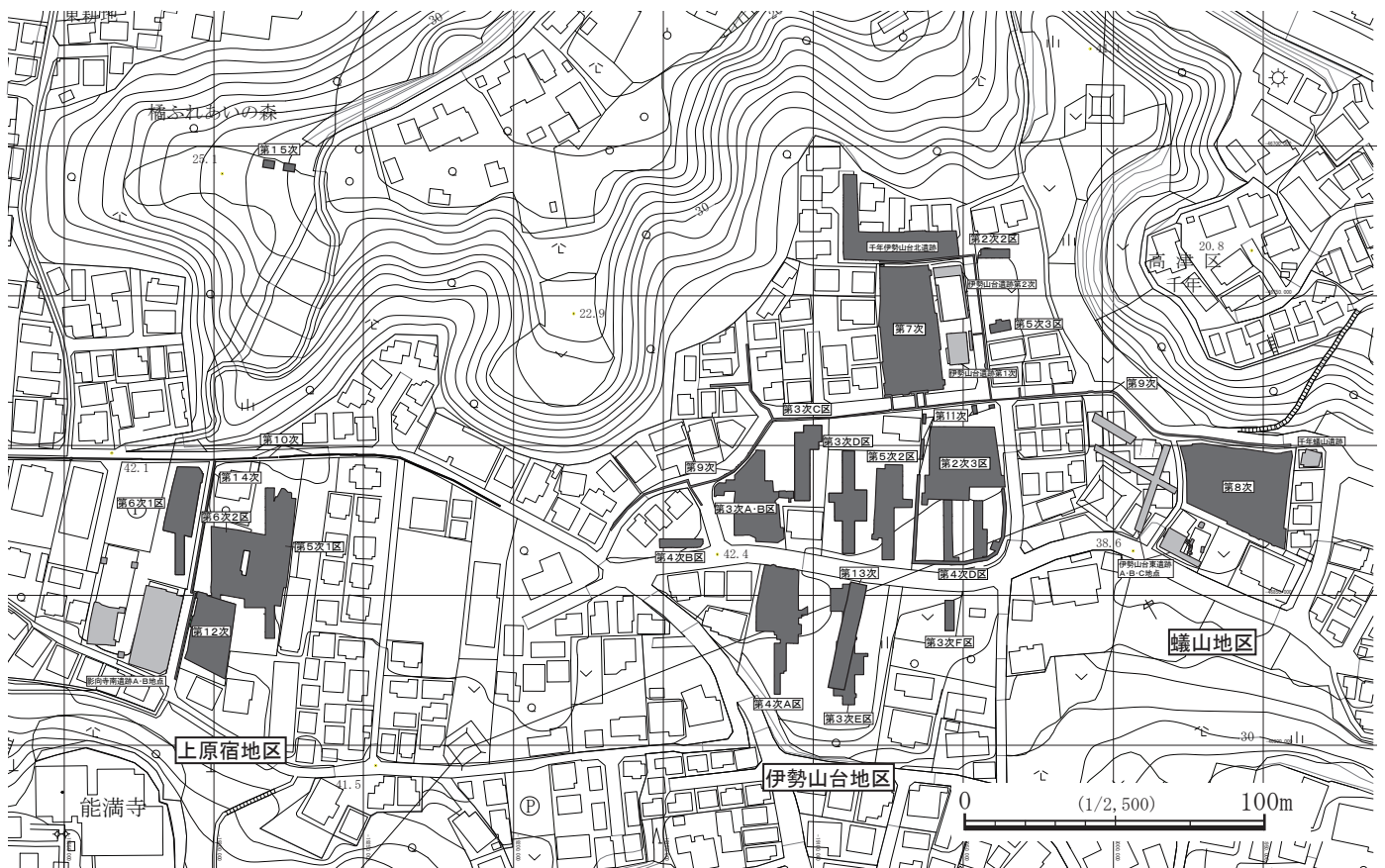
②影向寺遺跡の調査経過（第9図）

○開発事業等に伴う発掘調査・確認調査

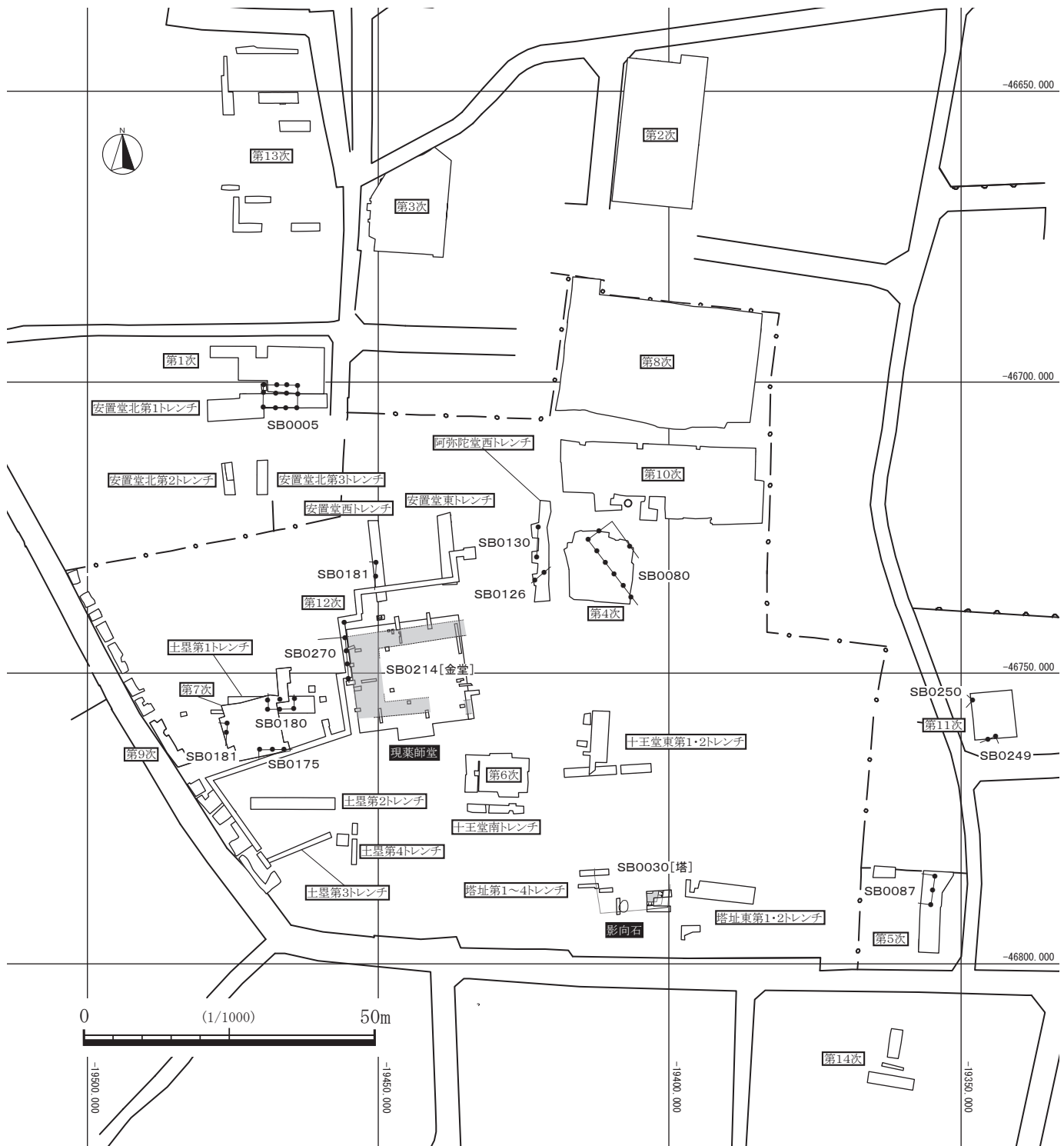
1975（昭和50）～2013（平成25）年度 影向寺遺跡第1～15次調査

○影向寺文化財総合調査

1977（昭和52）～1981（昭和56）年度 影向寺境内における確認調査



第8図 橘樹郡衙跡調査地点



第9図 古代影向寺主要建物及び調査地点

○影向寺薬師堂保存修理事業

1987 (昭和 62)・1988 (昭和 63) 年度 薬師堂基壇部調査

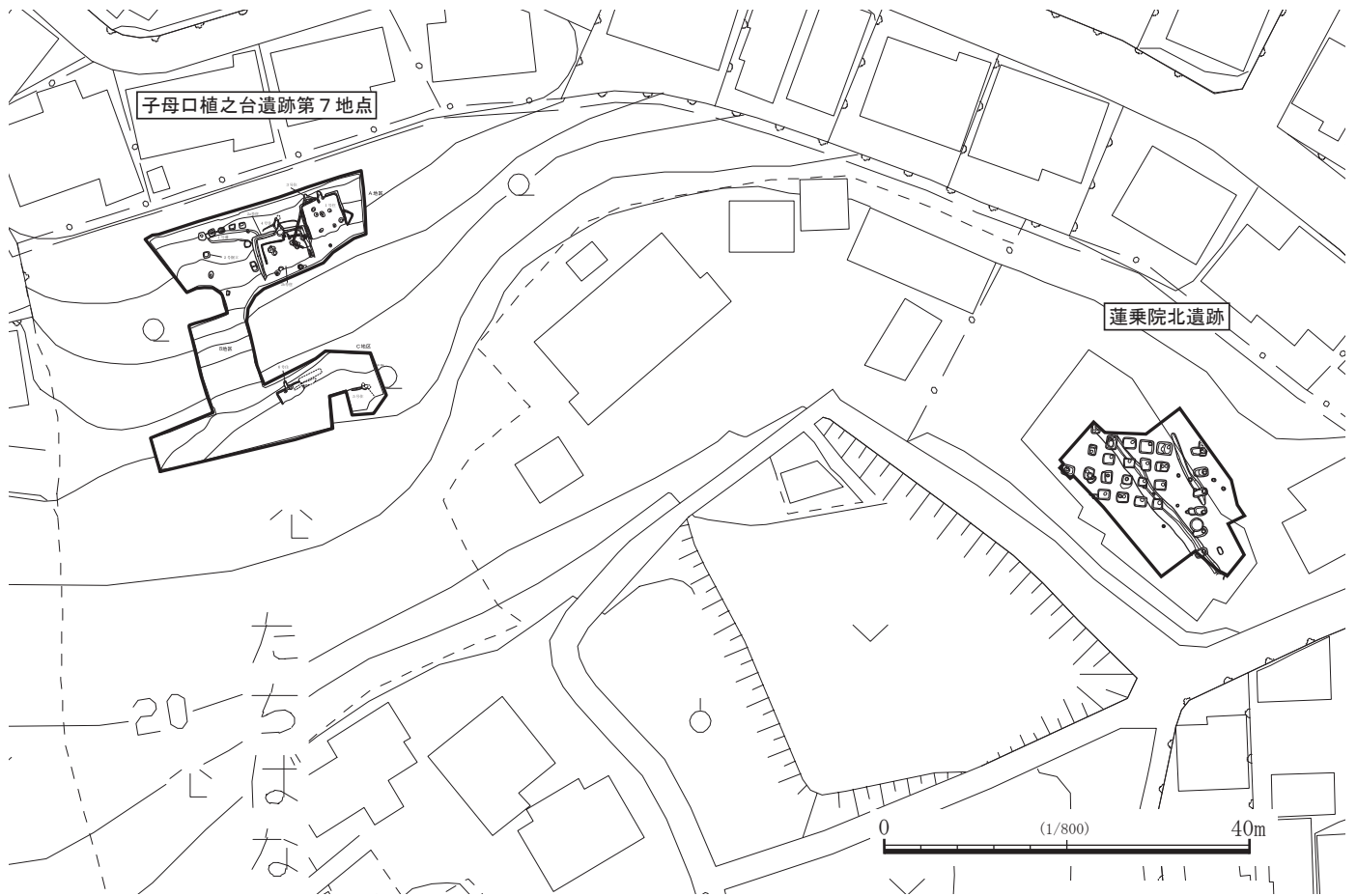
⇒瓦葺建物である金堂・塔が存在

③子母口植之台遺跡 [蓮乗院北遺跡] (第10図)

○開発事業等に伴う発掘調査

1987 (昭和 63) 年度 蓮乗院北遺跡

… 3 × 3 間の総柱建物及び大型の側柱建物を発見⇒当初、橘樹郡衙正倉かと注目



第10図 蓮乗院北遺跡・子母口植之台遺跡第7地点古代遺構配置図

1992（平成4）～2014（平成26）年度 子母口植之台遺跡第1～9地点

…古代の竪穴建物、掘立柱建物、道路状遺構等が検出

⇒橘樹郷？。橘樹郡衙跡の正倉院別院の可能性

④野川神明社南遺跡

○開発事業等に伴う発掘調査

2008（平成19）・2010（平成21）・2012（平成23）年度 野川神明社南遺跡第1～3次調査

…古代の竪穴建物とともに、大型掘立柱建物が多数検出

4. 古代の川崎市役所～橘樹郡衙正倉院の変遷（第13～16図）

橘樹郡衙正倉院は、調査で検出された建物群の構造・性格などの検討結果を踏まえ、大きく4期の変遷を辿るものと推定される。

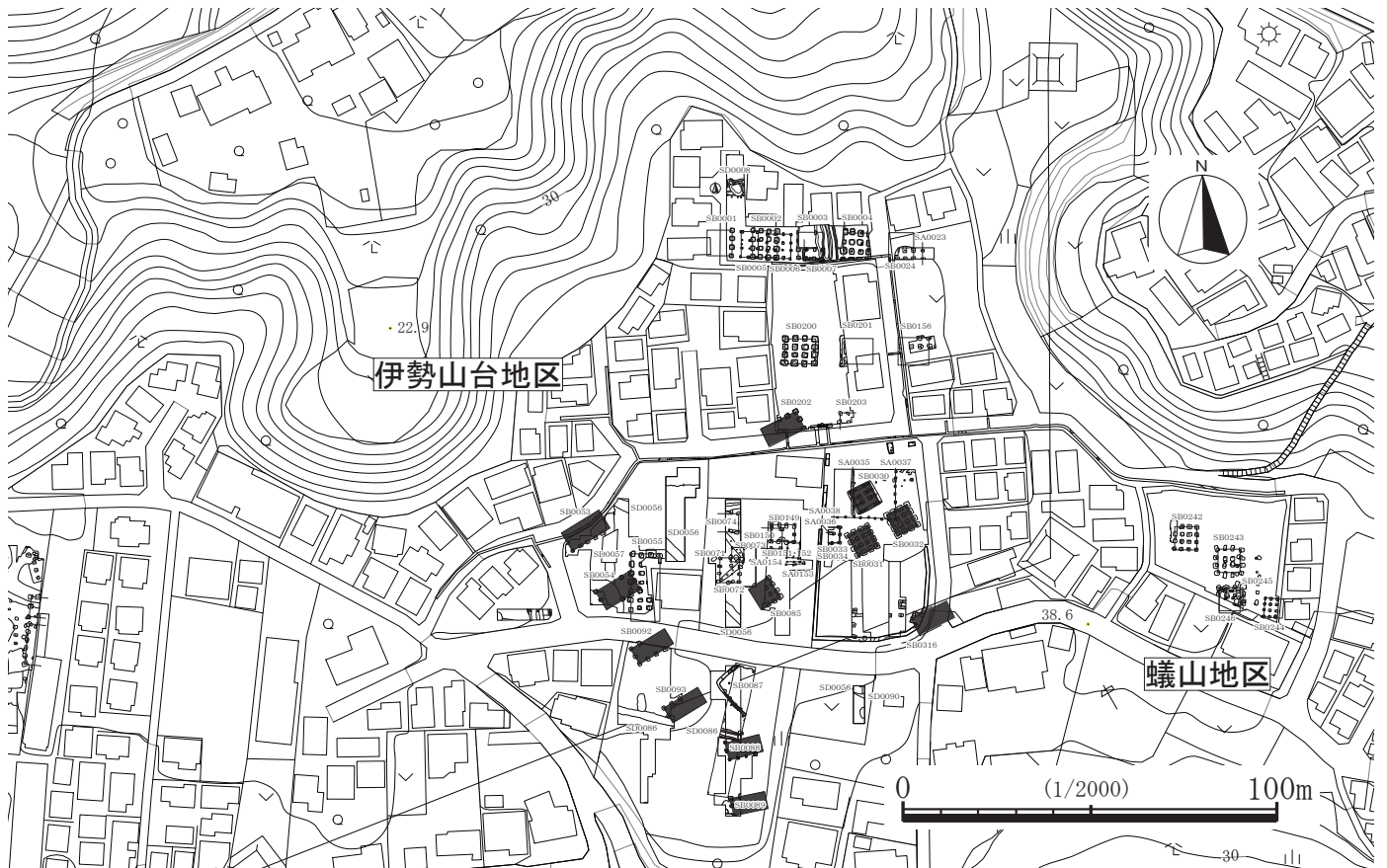
○I期…真北から40度ほど西に振れた主軸方位をとる壁建ち（大壁）建物が設けられた段階。

7世紀後葉の時期。

※壁建ち（大壁）建物＝朝鮮半島系

⇒渡来系有力氏族が関与

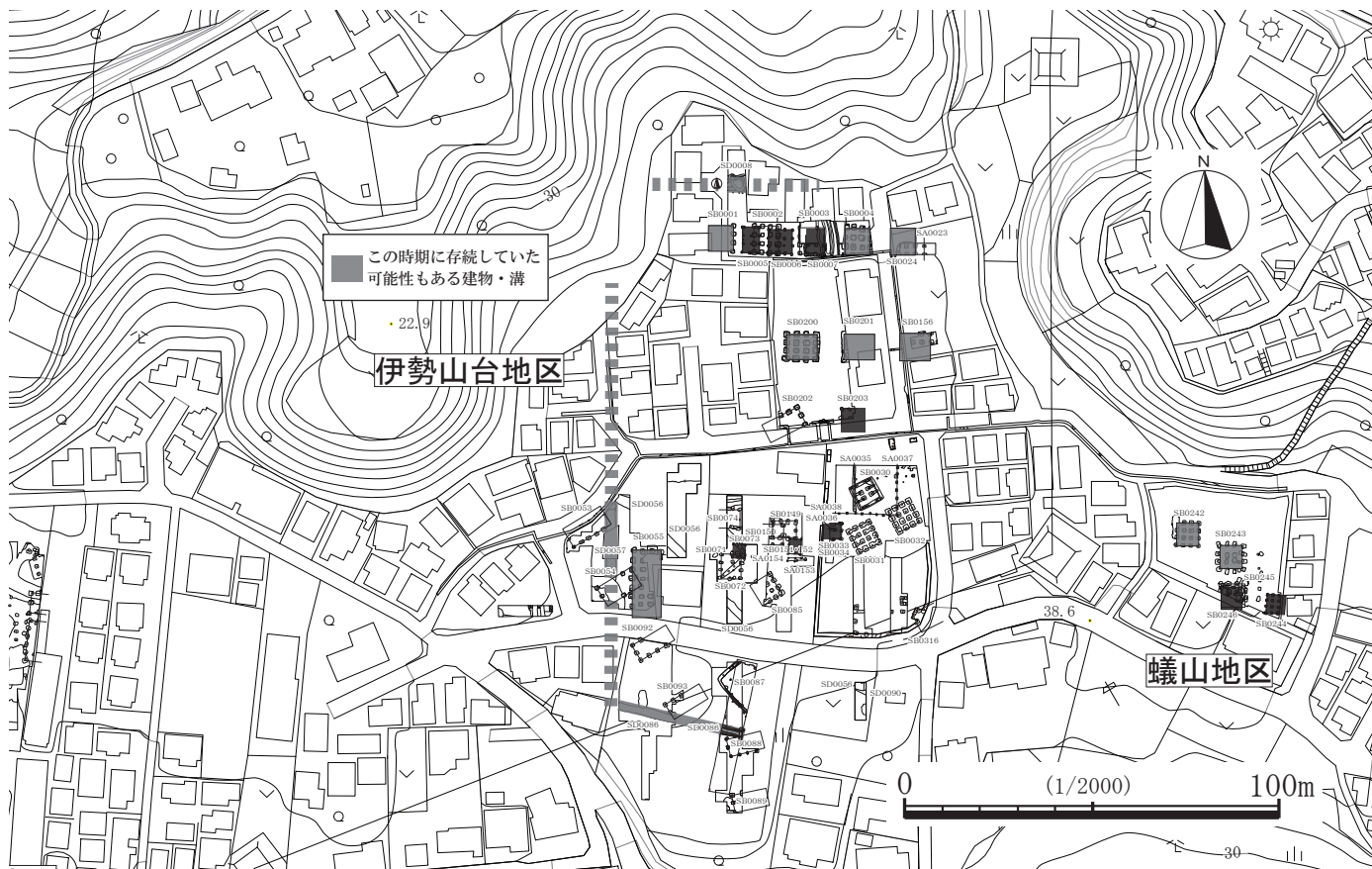
候補として、後に『続日本紀』に記載される飛鳥部吉志が挙げられる。この飛鳥部吉志は、先進的な技術を伴って橘花屯家の管掌者として派遣されてきた可能性が高く、この屯家の管理・支配を介して王権とつながっていた飛鳥部吉志が、橘樹評の



第12図 橘樹郡衙正倉院Ⅱ期



第13図 橘樹郡衙正倉院Ⅲ期



第 14 図 橋樹郡衙正倉院Ⅳ期

5. まとめ

①橋樹官衙遺跡群の成立

○橋樹郡衙跡を含む橋樹官衙遺跡群・・・古代の水陸交通の要衝に立地（古代の駅路に遡ると推定される中原街道や矢上川・多摩川）

○橋樹郡衙跡・・・初期正倉造営以前に建てられた壁建ち（大壁）建物の存在＝渡来人に関わる建物

⇒この建物は橋樹評衙や影向寺の造営にあたる現地拠点として設けられた可能性が高く、渡来系有力氏族がその造営に大きく関わっていたことを示唆

②橋樹郡衙正倉院の終焉

○全国で発見されている郡衙正倉院・・・8世紀末以降にも大型の礎石建ちの倉や大型の屋が新造される例が多い。また、少なくとも9世紀前半代までは正倉院の機能が維持されていることが多い

○橋樹郡衙正倉院・・・9世紀前葉には小型の倉庫への改築、小規模な倉の新造などがわずかに行われる程度で、いち早く解体過程を辿る

※ただし、西側に隣接する影向寺は、出土瓦から9世紀後葉から10世紀初頭の時期にも補修実施。橋樹郡衙正倉院とは異なる状況。

○橋樹郡衙正倉院はなぜ9世紀に入ると急速に衰退に向かったのか？

⇒（理由）

●正倉火災への防火対策・・・8世紀中葉以降、全国で神火と呼ばれた正倉火災が多発

791（延暦10）年 新造する倉庫はそれぞれ10丈（約30m）以上離して造営せよとの
太政官符

795（延暦14）年 郷ごと（後に複数の郷の中央）に正倉別院を置くこと。従来の不動
倉は貯積していた不動穀を使い果たした段階で新院に移築すること
などを命じた太政官符

※子母口植之台遺跡（蓮乗院北遺跡）の総柱建物の存在＝正倉別院の可能性

⇒⇒⇒こうした長年の努力が実を結び、

2014（平成26）年11月21日 国の文化審議会から国史跡指定の答申

2015（平成27）年3月10日 官報告示

＝川崎市初の国史跡が誕生！！

【参考・引用文献】

- 伊東秀吉・竹石健二ほか 1981 『川崎市高津区野川影向寺文化財総合調査報告書』、川崎市教育委員会
大橋泰夫 2012 『古代日本における法倉の研究 平成21年度～平成23年度科学研究費補助金（基盤研究（C））研究成果報告書』
河合英夫 2006 「（調査報告）ここまでわかった橘樹郡衙―調査成果と課題―」『シンポジウム古代の川崎市役所を発掘する―橘樹郡衙推定地の調査成果と歴史的意義―発表要旨』、川崎市教育委員会
河合英夫・中山 良 1993 「川崎市高津区子母口植之台遺跡発掘調査報告書」『川崎市文化財調査集録』第29集、川崎市教育委員会
河合英夫・福田 良 1997 「川崎市宮前区影向寺台遺跡発掘調査報告書」『川崎市文化財調査集録』第33集、川崎市教育委員会
河合英夫ほか 2000 『川崎市千年伊勢山台北遺跡調査報告書』、千年伊勢山台北遺跡調査団
河合英夫ほか 2011 『蓮乗院北遺跡発掘調査報告書』、蓮乗院北遺跡発掘調査団
川崎市教育委員会 2005 『武蔵国橘樹郡衙推定地 千年伊勢山台遺跡―第1～8次発掘調査報告書―』
川崎市教育委員会 2009 『子母口植之台遺跡第4地点・子母口根方遺跡第3地点―川崎市高津区子母口における個人専用住宅建設に伴う発掘調査報告書―』川崎市埋蔵文化財調査報告第3・4集
川崎市教育委員会 2014 『神奈川県川崎市 橘樹官衙遺跡群の調査―橘樹郡衙跡・影向寺遺跡総括報告書〔古代編〕』川崎市埋蔵文化財調査報告書第8集
佐藤 信 2005 『古代の地方官衙と社会』、山川出版社
鈴木靖民 1993 「第5章 古代の政治と文化」『川崎市史』通史編1、川崎市
須田 勉・阿久津久 編 2013 『東国の古代官衙』古代東国の考古学①、高志書院
関市教育委員会 2012 『弥勒寺東遺跡―郡庁区域―』
竹石健二・野中和夫 1988 『神奈川県指定重要文化財 影向寺薬師堂保存修理工事報告書〔基壇部記録調査編〕』、影向寺
茅ヶ崎市教育委員会 2013 『下寺尾官衙遺跡群の調査』茅ヶ崎市埋蔵文化財調査報告40
独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所 2005 『地方官衙と寺院―郡衙周辺寺院を中心として―』
独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所 2009 『古代地方行政単位の成立と在地社会』
山中敏史 1994 『古代地方官衙遺跡の研究』、塙書房
山中敏史ほか 2000 『郡衙正倉の成立と変遷』、奈良国立文化財研究所
山中敏史 2003 『古代の穎穀取取に関する考古学的研究（課題番号12610424）平成12年度～平成14年度科学研究費補助金（基盤研究（C）（2））研究成果報告書』
山中敏史ほか 2003 『古代の官衙遺跡Ⅰ遺構編』、独立行政法人文化財研究所 奈良文化財研究所
山中敏史ほか 2004 『古代の官衙遺跡Ⅱ遺物・遺構編』、独立行政法人文化財研究所 奈良文化財研究所
山中敏史ほか 2004 『古代の官衙・集落研究会 地方官衙と寺院―郡衙周辺寺院を中心として―研究報告資料』、独立行政法人文化財研究所 奈良文化財研究所
横山太郎 2012 『川崎市子母口植之台遺跡第7地点発掘調査概要報告』、有限会社吾妻考古学研究所